

熊大通信

Kumamoto University Campus Magazine

vol. 93
SUMMER 2025



特集

I/ 異分野融合

熊本大学の分野を超えた研究が、新しい世界の扉を開く

特集

II/ 未来への道しるべ

熊大生のキャリア支援+卒業生ジャーナル拡大版



2025年5月、阿蘇くまもと空港の熊本大学看板をリニューアルいたしました。

熊本大学広報誌
熊大通信 vol.93
2025 SUMMER
Kumamoto University Campus Magazine

表紙

知能が高く、鳥でありながら人の言葉を覚え、話すこともできるオウム。ハイブリッドかつ多様な色を持つこの生き物を、今号の特集I「異分野融合」のシンボルといたしました。

表紙背景写真提供：大学院先端科学研究部 中島雄太研究室

- 01 ― 「創造する森 挑戦する炎」 阿蘇くまもと空港看板リニューアル
- 03 ― 特集 I 異分野融合
熊本大学の分野を超えた研究が、
新しい世界の扉を開く
- 11 ― 研究室探訪 患者さんや地域の利益も見据え
基礎研究と臨床研究の両輪で
～熊本大学整形外科科学講座
- 13 ― 特集 II 未来への道しるべ
～熊大生のキャリア支援
＋卒業生ジャーナル拡大版
- 20 ― 新・熊本大学広報Webサイト「Kumadai Now(熊大なう。)」始動！
- 21 ― 熊本大学基金よりお知らせ
- 23 ― キャンパス ミュージアム散策 ラフカディオ・ハーン先生の碑

※記載されている職名や学年等は、取材時のものです。

- 〔発行〕 国立大学法人 熊本大学
〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1
【総務部総務課広報戦略室】
Tel.096-342-3119 Fax.096-342-3110
sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp
- 〔編集〕 熊大通信編集委員会
首藤 剛 / 委員長 広報担当副理事
(大学院生命科学研究部(薬学系)准教授)
宮尾千加子 / 理事(非常勤 / 広報・ブランディング・行政連携担当)
松岡 浩史 / 大学院人文社会科学研究部(文学系)准教授
濱田 絵美 / 大学院人文社会科学研究部(法学系)准教授
山田 勝雅 / 大学院先端科学研究部(理学系)准教授
寺崎 秀紀 / 大学院先端科学研究部(工学系)教授
中村 五月 / 大学院生命科学研究部(保健学系)准教授
倉内 祐樹 / 大学院生命科学研究部(薬学系)准教授
松永 拓己 / 大学院教育学研究科美術科教育 教授
廣田 孝史 / 総務部総務課副課長(広報戦略室長)

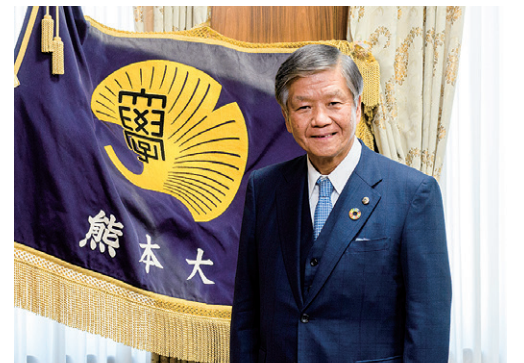
〔制作〕 株式会社城野印刷所

知に満ちた森を育み、挑む炎を燃やし続ける熊本大学

熊本大学は、明治20(1887)年に設立された第五高等中学校(五高)以来の歴史と伝統を持つ大学です。長い歴史の中で培ってきた知の蓄積を礎に、本学のコミュニケーションワード「創造する森 挑戦する炎」のもと、「独創性と新規性」に満ちた知の森を育み、「改革と実行」という、挑み続ける炎を絶やさずに、社会に変化をもたらす大学をめざしています。

この『熊大通信』は、そんな本学の挑戦と成長の今を伝える広報誌です。学生や教職員、卒業生が織りなす多彩なストーリーを通じて、本学の今とこれからの感じていただければ幸いです。

学長として、本誌が本学と社会をつなぐ架け橋となることを願っています。今後とも本学の歩みにご注目ください。



熊本大学学長 小川久雄

異分野融合

かつてないスピードで変化が進む現代社会に、単一のやり方や考え方で対応することはもはや不可能です。そこで今、サイエンスやビジネスの世界でも注目されるのが「異分野融合」。

分野の垣根を越えて知識や経験、テクニックが混ざり合うとき、そこにイノベーションは生まれます。

INTRODUCTION

人文社会科学、自然科学、生命科学、これらすべての学問領域を有する熊本大学。総合大学であるという強みを生かし、様々な異分野融合研究が進められています。

それをさらに強力に推進すべく活躍しているのが、University Research Administrator (URA)。大学の研究力強化を担う専門職員です。異分野融合研究の意義や熊本大学の取り組みなどについて、URAのお二人に語っていただきました。



福田主任URA(左)と曾我URA(右)

異分野の視点が 研究を加速する

主任URA 福田 直子
Naoko FUKUDA

研究は学問として細分化され、研究者の専門性はより深く狭くなっています。その中で研究者が突き当たるのが、自分の専門だけでは解明できない部分や、他分野と接触する部分。例えば生命現象を見る研究にも、力学や工学の力を必要とすることが多々あります。

今、研究の世界では、それぞれ細かく深く専門性を磨き鋭い知識を身につけた異分野の研究者同士が結びつくことで、その課題を乗り越え、新しい研究や知見につなげようとする潮流が生まれています。7学部1学環、6大学院を有する総合大学である熊本大学にはあらゆる分野の研究者が在籍しており、異分野融合を学内で進められる大きな強みを持っています。熊本大学の各キャンパスはすべて近距離内にあり、研究設備や機器、それらを運用する人材など、研究基盤が充実していることも、異分野融合研究を支えています。

自分の専門分野にほかの分野の視点が入ってくると、それまで当たり前だったことがまったく違って見えることもあり、それが研究をさらに大きく発展させるきっかけになることも。現代ではますます複雑化する社会問題の解決に対して、科学技術や研究への期待も高まっています。様々な研究分野が垣根を越え、さらには企業や自治体とも連携し融合することが課題解決につながると考えています。

つながるきっかけを 積極的に創出

URA 曾我 美南
Minami SOGA

私たちが所属する研究開発戦略本部では、異分野融合研究を促進する様々な取り組みを行っています。そのうちのひとつが、学内セミナー「HOW融合?」。熊本大学内で精力的に異分野融合研究をされている先生たちに、研究内容や融合研究を進めるうえでの工夫を共有していただくことで、融合研究のご経験がない先生方にも融合研究を行うヒントやきっかけを得ていただくことが目的です。そのほか、分野を問わずに研究の内容や手法、課題を発表しあうポスター発表会「100人論文」は、京都大学の先生が発案された取り組み。全国の大学に広がっており、熊本大学でも「熊大100人論文」として実施し、これまでに約20組をマッチングし、実際の研究に発展しているものもあります。半導体に関する異分野融合研究も活発で、例えば半導体と生命系の先生方が積極的にディスカッションをされていたり、そのほかにも自発的に異分野融合研究の勉強会やセミナーを開催する先生方もおられたりと、機運の高まりを感じています。

また、異分野融合研究に積極的な先生方のもとでは学生も異分野融合研究にかかわることが可能です。学生を対象にした博士人材育成プログラムには、異分野融合研究を見据えた支援制度も。採択された学生には研究費だけでなく生活費相当額も支給され、研究環境や学位取得後のキャリアパス形成をサポートしてもらえます。

熊本大学の
分野を超えた研究が、
新しい世界の
扉を開く

▶学内セミナー「HOW融合?」
セミナーではこれまでに、14組の異分野融合研究が発表されました。
今回はこの14組の中から、異分野同士が結びつくことで「見えなかったものが見えた」、
そんな融合研究3組をご紹介します。

「HOW融合?」の
概要はこちらへ。



発生医学 × 機械工学

マウス胎児の脳内を世界で初めて計測 ミクロの工学技術が発生医学に新しい光を当てた！

発生医学研究の脳発生分野で、小さなマウス胎児の、さらに小さな脳内の力学環境を測りたかった研究者と、半導体加工技術をはじめとしたナノ・マイクロ工学技術を専門とする研究者が出会い生まれた異分野融合研究をご紹介します。

脳発生 の研究者



発生医学研究所
脳発生分野

畠山 淳准教授
Jun HATAKEYAMA

身体の組織や器官の発生機序を明らかにし、かつ、病態の解明や治療法の開発につなげる基礎研究を行っているのが熊本大学発生医学研究所。畠山准教授はここで、脳の発生を専門に研究を続けています。「ヒトはなぜ大きな脳を持つことができたのか、また、高次な知能に結びつく脳のシワはどうできていくのかはまだほとんどわかっていません。そこを明らかにしたいというのが私の研究です」

小さな デバイス開発 の研究者



大学院先端科学研究部
生命分子・医用材料分野

中島 雄太准教授
Yuta NAKASHIMA

半導体加工をはじめ、工学的技術を用いた小さなものづくりが専門の中島准教授。作製した小さなデバイスを使ってオルガノイド(疑似臓器)を作り、それを病態解明や薬の有効性を見る研究につなげるなど、得意とするのが医工連携です。「今特に力を入れているのが、50億個という血球の中にあるわずか10個程度のがん細胞を検出するがん検診ツールの研究。工学を生命科学研究や医療につなげる研究を続けています」

ナノ・マイクロ工学技術で探る『ヒト脳の大大型化の謎』

胎児の脳室の力学環境を 世界で初めて確認

——実施された融合研究について教えてください。

畠山 脳のサイズは、発生の段階で、将来の脳を構成するニューロンなどを作り出す神経幹細胞の数をどれくらい作り出せるかに起因します。神経幹細胞がより少ないマウスの脳は小さくなり、マウスの何倍もの神経幹細胞を持つヒトは大きなサイズの脳を持つことができます。世界の脳発生研究では、ヒトが多くの神経幹細胞を持つために獲得した遺伝子を明らかにする研究が盛ん。一方で、神経幹細胞を取り囲む外的要因の視点からの研究はまだほとんどありません。私は、神経幹細胞の増大に、神経幹細胞の周囲の環境の種間差がどのような影響を与えているかに着目。外的要因である脳脊髄液中の増殖因子や力学刺激の種間差が、ヒト脳の大大型化に関係するという仮説を持って研究を進めています。

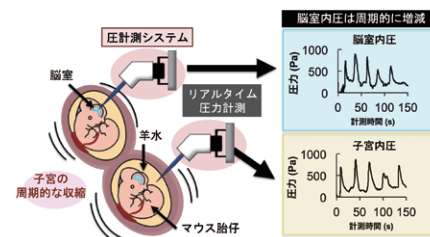
そこで、まず試みようと思ったのが、マウス胚の脳内の力学環境を知るための脳室内圧測定。ただ、とても小さなマウスの胚の、さらに小さな脳室の圧をどう測ればいいのか考えていた時に知ったのが、先端科学研究部の中島准教授の存在でした。

中島 私の専門はそもそも、半導体の加工技術を使って小さな道具、機械や装置を作ること。畠山准教授から話を聞き、脳室の圧を測ることは可能だと考えました。

ストローの中に液体を入れて片方から圧力をかけたら、液体は反対側に飛び出します。それと同じ原理のものを小さな空間で作りました。小さな場で何かを測るときはマクロな場で測る場合と現象が違ってくるので、小さな場で測るためには小さな装置が必要です。今回の装置も手のひらに収まるサイズで、脳に刺せる細い針がついてい

ます。装置の中には脳よりも小さなサイズの水が流れる場所があり、その水がどれくらい圧縮されたかによって、脳室の圧がわかります。もちろん最初からうまくいったわけではなく最初は全然測ることができませんでした。圧が逃げないように針の長さを短くしたり、針を出すチューブの材料もいろいろ変えてみたりと試行錯誤。ここで、当時修士課程の学生だった赤池麻実さんととにかく頑張ってくれました。

畠山 測定の結果、脳脊髄液で満たされた脳室は陽圧で、それも、圧は周期的に増減し、一定ではないことがわかりました。一定でない理由は、胚を育む子宮が一定間隔で収縮と弛緩を繰り返しているから。その力が、脳室の中の脳脊髄液にもおよんでいます。これを世界で初めて確認することができたのは、中島准教授と赤池さんのおかげです。今後は、様々な動物で力学環境を調べて脳サイズとの関連を明らかにし、ヒト脳の大大型化における力学刺激の役割を解明したいと考えています。

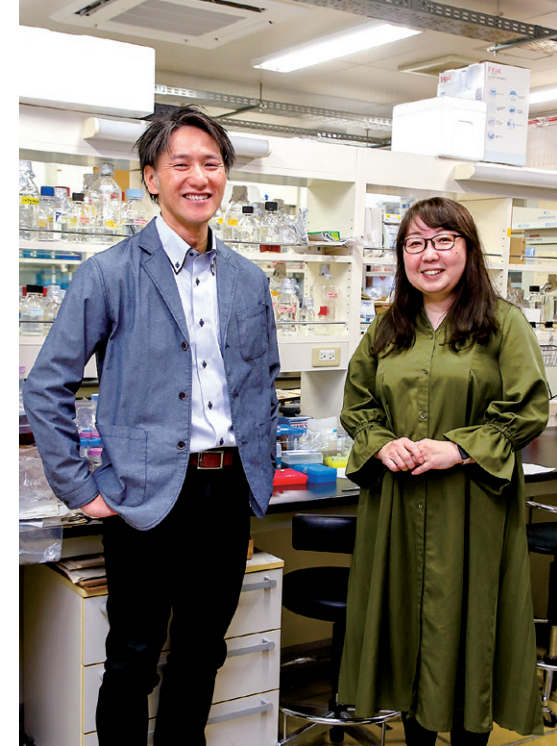


マウス胎児の脳室の圧を計測したグラフ(上)。子宮の収縮と弛緩のグラフ(下)と同じ線を描いている。

異分野融合研究で 世界中の人々に貢献したい

——異分野融合研究の意義をどうお考えですか。

中島 私は工学が専門ですが、もともとは医学に興味がありました。今、畠山准教授との融合研究も含め様々な医工連携研究を



進めながら思うのは、医師のように目の前の患者を治すことはできないけど、工学分野で研究する医療機器を通してなら、世界中の人々に貢献できる可能性があるということ。自分だけの研究なら自己満足に終わってしまいがちですが、医学や薬学の先生方と一緒にやっていると、必要としているところに必要としているツールを届けられるという、異分野融合研究の意義を感じます。

畠山 中島准教授はもう本当に医学や薬学分野から引っ張りだこなんです。中島准教授のような方がいると、私たちも新しい研究の扉を開けることができます。

——今後の展望は。

中島 今回は計測に成功したわけですが、次は、その力学的環境を制御する技術を開発することで、幹細胞をより望むものに近い臓器に成長させる、より研究に役立つオルガノイドを作ることができるなどの可能性につなげられるのでは、と考えています。

畠山 私は、脳発生のメカニズムを明らかにしたのは新生児医療に貢献したいと考えています。日本は早産児や低出生体重児が多いのですが、彼らは子宮環境外で育つ時間が長く発達障がいなどのリスクも高いとされています。ヒトの脳の正常発生を知ることができれば、どんなケアをすれば早産児の障がいリスクを減らせるかがわかる、そこに貢献できると思っています。



脳圧を測ったデバイス



発生段階で大きさが違うマウスの胎児

この研究で学位を取得

大学院先端科学研究部
医工学部門

赤池 麻実 育成助教
Mami AKAIKE



学生時代に研究に参加

学部4年次からこの融合研究に参加。脳室の圧を測るデバイスの開発と計測を行いました。私が所属する工学と発生医学では用語も考え方も大きく異なり最初は戸惑いましたが、少しずつ理解を深め乗り越えました。自動車やロボットなどの工業分野に役立つ工学知識が生体内の現象理解にも不可欠であることは、大きな発見でした。苦労もありましたが、最終的に脳圧の計測という目標を達成でき、この研究で学位を取得。畠山准教授や中島准教授の期待に応えたい思いが自分の成長の原動力になりました。真摯に課題に向き合い、時には人の助けを借りる大切さも学びました。

工学×教育学

建築音響学と特別支援教育研究が出会ったら 教育現場の音環境向上の重要性が見えてきた！

建築学において音環境に注目し研究を続けている先生方と、
特別支援学校を含めた教育現場における環境づくりに着目している
教育学分野の先生が出会い生まれた異分野融合研究をご紹介します。

音環境のエキスパート



大学院先端科学研究部
人間環境計画学分野
川井 敬二教授
Keiji KAWAI

建築において健康で快適な空間づくりを目指す建築環境工学の中で、音からの設計を扱う「建築音響学」を専門としています。「建築音響にもいろいろあり、私のメインテーマは子どものための建築音響設計。特に幼稚園や保育園、そして特別支援教育の現場における音響設計の有効性を検証しています」

学生時代から融合研究に参加



大学院先端科学研究部
人間環境計画学分野
丸山 直也助教
Naoya MARUYAMA

建築音響学が専門。川井教授のもとで学位を取得した際の論文は、大勢が話している場所でどう快適性を確保できるかを、カフェやレストラン等を対象に研究した「多群会話空間」がテーマでした。「この融合研究には博士課程1年の時に参加。音環境設計における吸音の有効性を検証する実験を行いました」

心理学と特別支援教育の専門家

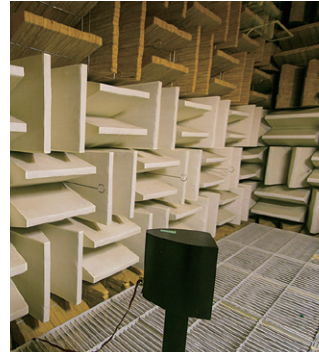


大学院教育学研究科
特別支援教育講座
菊池 哲平教授
Teppei KIKUCHI

心理学や特別支援教育を専門に、特に自閉症スペクトラムやADHD等の発達障がいを対象に研究を進めています。「それらの障がいを持つ子どもたちにとって、学校を学びやすく生活しやすい場にするためにはどんな支援ができるのか」が主な研究テーマ。通常の学校・学級の授業や教室環境についても研究しています」

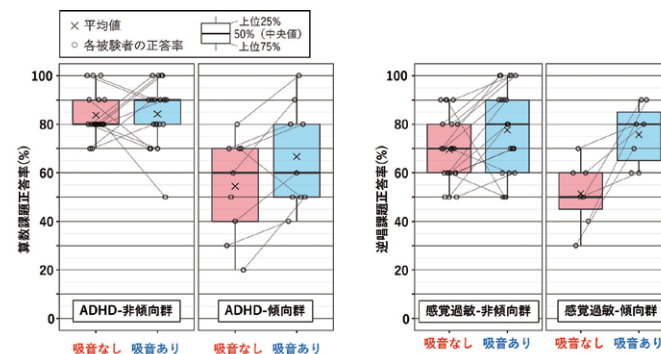


実験で使われた全指向性スピーカー



建築音響学の試験に使用される無響室

■大学生28名を被験者とした大学内での実験結果の一部



丸山、川井、菊池、発達障害特性と認知課題遂行への吸音の効果との関係に関する実験、日本建築学会技術報告集、29巻71号(2023)

算数課題の正答率と、 逆唱課題の正答率

それぞれの箱は正答率の範囲を示す。ADHD非傾向群は、吸音なし(赤)でも吸音あり(青)でも正答率はほぼ同じ。しかしADHD傾向群は、吸音なし(赤)の場合は正答率が低くなり、吸音あり(青)の場合、正答率がADHD非傾向群とほぼ変わらなくなることがわかる。吸音材を設置すれば、ADHD傾向のある人も傾向のない人と同じくらいの認知能力になるという可能性が示唆された。

多様な聞こえのニーズに対応する教室の建築音響設計の効果検証

ADHD 傾向の被験者は 吸音環境で成績が向上

——融合研究前にあった課題を教えてください。

川井 保育園・幼稚園での建築音響設計の研究には15年くらい前から取り組んでいて、言葉の発達段階にある小さい子どものために、残響を抑えた聞き取りやすい空間の重要性を実証してきました。その中で、特別支援教育の場にはさらに建築音響的な工夫が必要ではないかと思っていたところに偶然、菊池先生と出会う機会がありました。

菊池 学校の教室環境は、子どもたちの過ごしやすさに十分に配慮されているとは思いますが、子どもたちにとってどんな環境がいいのかをもう少し検討したほうがいいのですが、私たちには建築的なノウハウがありません。音に関しても、きちんとデータを取り研究ペースまでもっていくとなると、専門分野が違います。川井教授と出会うことができ、建築学的に教室環

境を研究できる魅力的な話だと思い、一緒に研究を行うことになりました。

——どのような融合研究を行ったのですか。

菊池 最初は、特別支援学校で実験をさせてもらいました。私の研究室の学生たちに手伝ってもらい、不織布でできた吸音材を天井に張った吸音材がある時と、それが無い時の両方で、子どもたちの様子をビデオ撮影。子どもたちが、1時間に何回動いたかなどを測るタイムサンプリング法で、吸音材があるとどれくらい落ち着いて先生の話が聞けるようになるかを調査しました。すると、吸音材がある時のほうが子どもたちの動きが減り、先生に聞きなおすという行動も減ったんです。



吸音材設置の様子

丸山 どれくらい吸音すればどれくらいの効果があるのかデータを取って明らかにする基礎的な研究は、大学内で実施しました。バブルノイズ(人の声を重ねたざわざわした音)を大きな音量で流した部屋で、吸音ありと吸音なしという2つの条件で同じ学生たちに同じ認知課題に取り組んでもらう、というものです。

菊池 その際使った認知課題は、読み上げられた数字をそのまま復唱する順唱、あるいは逆に復唱する逆唱課題、文章で出される四則演算を解く算数問題などです。学生たちにはあらかじめADHD尺度と呼ばれる質問に答えてもらい、ADHD傾向群と非傾向群を把握。そのうえで全員に、吸音ありとなしで認知課題に取り組んでもらい、その成績を測定しました。

丸山 結果は、ADHD非傾向群では、吸音があってもなくてもそれほど差はありませんでした。しかしADHD傾向群では、吸音されていない環境だと成績が悪くなり、吸

音されている環境だと、ADHD非傾向群と同じくらいの成績を取ることができたんです。これは、吸音されていない環境は、ADHDのような特性がある人にとって不利になるということ。つまり、実際の教室等では、発達障がい特性がある児童生徒の学習のためには、学習環境における吸音が有効であることが示唆されたことになります。

さらなる融合研究で 成果を教育現場に届けたい

——融合研究の意義とは。

川井 私の専門である工学研究は、最終的に社会に役立つことが目標です。建築音響の理論や技術が教育現場の環境を良くすることは間違いないのですが、工学分野からでは、実際の教育現場で何に困っていて何を求めているか、知りようがありません。今回の融合研究では、子どもたちが実際にどんな環境、どんな形式で学んでいるかを

現場で知ることができましたし、そこに響きを抑えたり遮音する技術をどう有効活用できるのか、展望が見えました。菊池教授による認知課題の実験なども、学べるものが多かったですね。

菊池 あまり集中できない児童に対し、教育現場でできることと言えば、黒板の周りに掲示物を貼らないとか、そういったソフト面が主です。ハード面の取り組みは、やっぱり建築分野の専門家が身近にいる環境でないと難しいんです。様々な専門分野がありこういった異分野融合研究につなげやすいことが、熊本大学の力だと思います。

——今後の展望は。

川井 他大学との共同ですが、幼児教育分野の研究者と融合研究を進める予定です。テーマは「保育者の保育実践と園児の生活に対する残響低減の効果」。建築学の中だけではなかなか社会実装につながりませんので、この融合研究にも期待しています。

丸山 私は現在、図書館のラーニングコモンズを対象に研究しています。ラーニングコモンズは、人が集まりディスカッションしつつ勉強もするという空間ですが、実は音についてはまったく考慮されていません。建築音響学に、教育学や図書館学などの知識も融合させて研究を進めたいと思います。

菊池 教室の音環境をどうすれば効果が上がるかがわかって、実際に学校の環境を整えるとなるとコスト面などのハードルが高いと感じています。そこを超えるにはもっと多くのエビデンスが必要です。より多くのデータを収集するためにAIを活用するなど工学分野の力を借りたり、様々な面から効果を測定するには医学や理学の力も必要。社会実装には制度整備の面で法学の力も不可欠です。研究から得られたことを実際に子どもたちのところへ届けるには、もっといろいろな人たちの力が必要だと考えています。

社会心理学 × 医用生体工学

マスク下の表情を、人はどれくらい読み取れる？ その認知度を脳波で科学的に検証

コロナ禍が収束しても、日本人にはマスクを手放さない人が少なくありません。マスクをした表情から、その人の感情を他人はどれくらい読み取れているのか。社会心理学の研究に脳波測定という工学的手法が加わった異分野融合研究をご紹介します。

社会心理学研究者



大学院人文社会科学部 心理学
西川 里織准教授
Saori NISHIKAWA

医学系研究室の出身で、現在はSNSやスマホ依存、引きこもりや不登校といった身近なテーマを心理学的アプローチで研究しているのが西川准教授。「普段は、メンタルヘルス、心の回復力（レジリエンス）などをテーマにアンケート調査を行っています。アンケートの回答に対して統計的な分析を行い、傾向や要因の関係性などを測定する心理測量という手法を使った研究を行っています」

医用生体工学のエキスパート



大学院先端科学研究部 医用福祉工学分野
伊賀崎 伴彦教授
Tomohiko IGASAKI

ヒトの生体が発する様々な情報を測り視覚化・数値化し、医療などの現場に役立てる工学的な立場から研究を行っているのが伊賀崎教授です。「例えば病院の集中治療室では、ベッドサイドでバイタルサインを測っています。そのデータから新たな疾患が起こる予兆を読み取れないかという研究や、喜怒哀楽を脳波や心電図から測り、メンタル状態の変化を早期に把握し、適切な支援や介入のきっかけを提供することを目指しています」



マスク着用時における表情認知の社会脳研究

マスクを着けた表情の 認知しづらさを脳波で確認

——表情認知はもともと西川先生のご研究と伺いました。

西川 社会心理学や実験心理学の分野には、表情識別課題という、他人の表情からその感情を読み取れるかを調べる研究があります。マスクを着けた表情が読み取りにくいことに興味を持った学生が、卒論のテーマとして研究することを希望したことから、マスク着用時の表情認知に関する研究を行うことになりました。これは伊賀崎教授と一緒にやる前に実施した研究です。

実験では、タブレットに表示されるマスクを着けた女性の顔を見て、「喜び」「悲しみ」「驚き」「怒り」「嫌悪」「恐怖」のいずれかを判断するように求めました。表情は段階的に読み取りづらくなるように設定しておき、その結果を解析。そうすると、マスクの有無に関わらず、「嫌悪」と「恐怖」の表情は読み取りづらいたことが明らかになりました。また、「喜び」は、表情の判別が難しくなるにつれて、マスク着用の顔はより認識されにくい傾向が見られました。これは、マスクが「喜び」の感情を伝えづらくしているということ。さらに、被験者の自閉傾向を測定するためのアンケート結果と組み合わせた分析をしたところ、「怒り」の表情認知と「想像力」の間に関連があることがわかりました。つまり、人の感情や架空の出来事に対する想像力を働かせることが難しい人は、周囲の人がマスクを着用していると表情を読み取ることが難しくなり、日常生活において困難を感じやすい可能性があると言えます。

——そこに伊賀崎教授のご研究が加わったわけですね。

伊賀崎 西川准教授の研究を、脳波を測るという手法を加えて改めて実施。タブレットパソコンに表示された表情を見て、どんな感情なのかを判断しボタンを押すところ

までは同じで、その行動をしているときの脳波を測りました。

脳波はおもしろいもので、表情を見たことによる刺激を受け、脳の中で高次な処理が行われ、笑顔なのか悲しい顔なのか判断する認知判断まで、ところどころで決まった反応が出ます。測定した結果は、表情を正しく判断する正確性においては、マスクありだと「嫌悪」の表情に関して誤回答が増えること、表情を読み取るまでの反応時間においては、マスクありだと「悲しみ」の表情を読み取るまでにより時間がかかってしまうことがわかりました。

回答が正解か間違いかは、脳波の差に表れません。誤回答でも、被験者が間違っていないと判断していれば、正解と同じように強く速い反応が出るためです。脳波に差が出るのは、表情をどう受け取ってよいか迷っているとき。いつものようなはっきりした反応があまり見られず、反応の出方が遅くなったり、弱くなったりする様子が確認されます。それがやはり「怒り」と「嫌悪」。つまりこの2つの感情は顔の表情が似ているため見分けが付きにくく、以前から西川准教授の研究でその難しさが指摘されていました。今回の結果は、そのことを脳の反応の変化からも確かめることができたと言えます。

表情認知のデータ化は 教育や医療にも役立つ

——このご研究は今後どう広がっていくでしょうか。

西川 例えば特別支援教育を受けている子どもの保護者や先生方が、自閉スペクトラム症などの発達障がいがある子どもがどれくらい相手の表情を読み取れているのか、そのデータを視覚化できれば、「ここは読み取れている」「ここは読み取れていない」という判断の材料になり、より効果的なコミュニケーションをとる工夫につながる。そういった部分に役立つようなことも



あるかと思います。

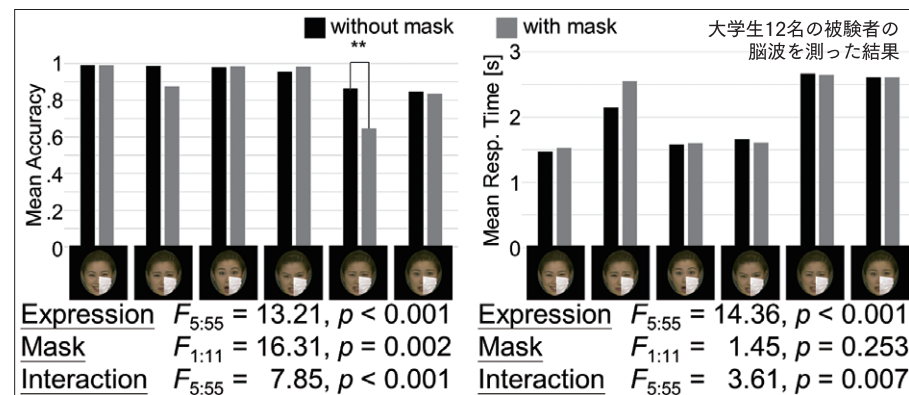
伊賀崎 表情を読み取る研究は、障がいがあるなしにかかわらず意義があると思います。特に日本という国は根性論が根強いし、助けてほしいということを単刀直入に言えず、そのシグナルも受け取ってもらえない場面が多々あります。そんな時、脳波などの反応をもとに、その人のストレスや集中状態などを視覚的・数値的に示すことで、周囲の人が状況を把握しやすくなり、適切な対応を取るきっかけになるような仕組みを目指しています。

——異分野融合研究の意義とは。

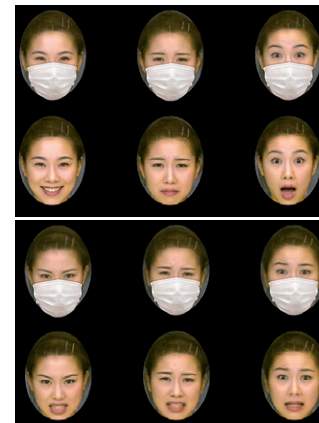
西川 社会心理学の手法にこういった工学的手法を組み合わせることは、やはり一人でやろうとすれば能力もお金も必要。それに対し、熊本大学のような総合大学にはそのリソースを持っている先生方がおられるので、コラボできることは醍醐味ですね。今は感情に関する研究に興味がある人も多く、伊賀崎教授のような工学的手法を用いた感情の研究が融合すれば、また新しい道が拓けるのではないのでしょうか。

伊賀崎 感情に関係する脳波も含め、ヒトという生体からの情報を使った工学研究を長年進めています。心理学という側面からすれば自分は素人です。例えばある実験をやろうと考えていると相談すれば、「じゃあ、こういったアンケートで被験者の傾向を見ると、こういうことがわかるのでは」と西川准教授からアドバイスを受けたり。自分ができないところと一緒にやっていただけるのは融合研究だからこそ。自分の研究が独りよがりな方向に行かないようにする、それが融合研究の最大のメリットだと考えています。

マスク着用が表情認知に及ぼす影響の行動指標による評価



棒グラフの黒はマスクなし、グレーはマスクあり。左側「回答の正確性」では、右から2番目の表情「嫌悪」で、マスクがあると正確性が落ちていることがわかる。右側「回答までの時間」では、左から2番目の表情「悲しみ」でマスクがあると反応に時間がかかり、被験者が判断に悩んだことがわかる。



表情認知に使用された顔写真

メンバー構成
教授1名、講師1名、助教8名(特任助教含む)、医員5名、社会人大学院生14名、大学院生8名(整形外科・リハビリテーション科・慶應義塾大学を含む)

学位テーマ

- 大腿骨近位部骨折発症と関連する因子の同定
- サイトカインIL-17による骨肉腫発症機構の解明
- 黄色靱帯および硬膜下脂肪腫アミロイドーシスによる腰部脊柱管狭窄症発症機構の解明
- 軟骨組織に発現するEnpp1による異所性石灰化・骨化と老化制御
- 肩関節修復におけるScx/Sox9二重陽性細胞の動員とその役割
- 前十字靱帯再建術後の靱帯修復におけるScx/Sox9二重陽性細胞の動員と加齢による変化
- 肩関節修復におけるScx/Sox9二重陽性細胞の動員と加齢による変化
- 骨折治癒促進性マグネシウム合金プレートの開発
- TNF α -mTOR軸による異所性骨化
- 超高齢者における骨粗鬆症とサルコペニアの有意な相関と両疾患におけるIGF1低下の意義

患者さんや地域の利益も見据え 基礎研究と臨床研究の両輪で



整形外科疾患の病態解明や治療法開発、 予防法の確立も視野に研究にまい進

熊本大学整形外科科学講座では、大きく分けて、整形外科疾患のメカニズム解明などの基礎研究と、同じ疾患を持つ患者さんを追跡・観察する分析疫学の手法の一つであるコホート研究という臨床研究、この2つに取り組んでいます。

基礎研究で扱っている一例が骨粗しょう症。疾患のメカニズムを明らかにするため、マウスの細胞を培養し骨を

吸収する破骨細胞と呼ばれる細胞をつくったり、遺伝子を見るなどの研究を進めています。治療標的や薬剤も探索し、近い将来に臨床応用ができることも目標の一つです。

コホート研究として進めている一つが大腿骨の骨折。骨折した患者さんの様々な情報を集めて分析。そうすると、折れるリスクになる要因を把握でき、骨折予防につなげることが可能です。データは、熊本県の病院や施設はもちろん、県や市町村という自治体とも連携し収集。自治体と協働でこのような研究を進める大学の研究室は珍しい存在です。

整形外科科学講座を率いる宮本健史教授に聞きました！

研究者の成長を、 地域や患者さんの利益につなげたい

熊本大学の整形外科科学講座には、リハビリテーションや、骨粗しょう症と共通の疾患がある歯科口腔外科からの大学院生もいます。私は慶應義塾大学医学部の整形外科科学も兼任しているため、合わせると研究メンバーは私を含め37人です。

人生の中の貴重な時間を使って研究する以上、私は、研究がその人の成長につながってほしいと思っています。個人の成長が組織の成長につながり、さらに彼らが学会等に参加して常に新しい情報に触れ、それを熊本にもたらしてくれれば、地域医療にもプラスになります。個人の成長が組織の成長に、そしてそれが地域と患者さんの利益にもつながっていく、そんな良い流れを構築することが、自分の仕事だと考えています。



宮本 健史教授 Takeshi MIYAMOTO
大学院生命科学部 総合医薬科学部門
感覚・運動医学分野 整形外科科学講座教授



1 細胞の栄養を新しくする培地交換を行う島田医師

2 培養している細胞をチェック

3 データ収集のため電話をかける高田医師

4 腱や筋肉などの組織の強度を測る機器

5 廊下にずらりと貼られた学会等のポスター

6 2024年6月開催の日本骨代謝学会学術集会には家族も同行

7 日本骨代謝学会の2024年度優秀演題賞を受賞した高田医師

8 石垣島で開かれた日本骨免疫学会

根治させる治療薬がない 骨腫瘍を研究

博士課程4年
島田 真樹医師
Masaki SHIMADA



研修医として2年間、整形外科に入局して臨床医として5年間経験を積んだあと、この整形外科科学講座に入りました。宮本教授は骨粗しょう症研究では著名な先生。この講座では宮本教授のもと、全員が、それぞれの目標や熱意をもって日々研究にいらしています。

私は、根治させる薬がまだない疾患である骨腫瘍のうちの一つを研究しています。腫瘍に特徴的な遺伝子の変化はわかっているのですが、その変化が何を意味するかなどはわかっていません。それを明らかにして、薬など治療方法の開発につながれば、と考えています。

今年が博士課程最後の1年。修了後は整形外科の執刀医として実臨床に携わりたいと考えています。外科系分野は手術に必要な手技を磨く必要があり、研究だけに没頭する時間をもたないと感じる人もいるかもしれません。しかし、ものの考え方や見方を突き詰められる研究を行う4年間は、決してブランクにはなりません。臨床医として誰もが持つ疑問や課題を、一度基本に立ち返って研究という形で探究できるのは魅力だと思います。

大腿骨骨折のデータを 収集分析するコホート研究

博士課程4年
高田 柊医師
Shu TAKATA



熊本県内にある総合病院の常勤医として勤務しつつ、週に1度、熊本大学の整形外科科学講座で研究を進めています。行っているのは、大腿骨の付け根部分の骨折である大腿骨近位部骨折に関するコホート研究。骨粗しょう症は骨折を繰り返す特徴があります。両側にある大腿骨の片方を骨折し、さらにもう片方が折れる因子になるものは何か。最初の骨折のデータをもとに、その後もう片方も骨折したか否か、要介護度はどうなったか、亡くなってしまったか、その3つに関して1年後のデータを収集。時間をかけて観察し分析することで予防法の確立を目指す研究です。

博士課程修了後は整形外科医として、手術はもちろん、手術をしない保存的治療など、患者さんに適した医療が提供できることが理想です。もちろん、研究に費やす時間もとても有意義だと思います。エビデンスや医療指針に基づいて医療を行うのが医師。そのエビデンスがどんな研究から得られているのか、指針がどう作られているのかを、臨床研究を通して学ぶことができます。

未来への道しるべ

熊大生のキャリア支援 + 卒業生ジャーナル拡大版

人生の中でももっとも長い時間を占める「仕事」。
あなたは、どんな仕事なら
自分や周りの人々を幸せにできますか？
今回は、大学生活と、その後の未来を描くヒントになるよう、
就職支援課からのメッセージ、そして、
「卒業生ジャーナル拡大版」として
様々な世界で活躍する卒業生たちをいつもより濃く紹介します。



■ 熊大生のキャリア支援～就職支援課に聞きました！

企業が学生に求めるものは 完成形ではなく「伸びしろ」



学生支援部
就職支援課
専門職員
日和田伸一さん

社会に出る前の最終段階である
大学生活をどう送るべきか。
熊大生のキャリア支援の強い味方、
就職支援課の日和田伸一さんに話を伺いました。

売り手市場でも たやすくはない就職活動

若い世代の人口は減り続け、新卒採用の現場では高い求人倍率が続いています。しかし「だからといって、売り手市場にあぐらをかくのは禁物です」と話すのが、熊本大学就職支援課の専門職員、日和田伸一さんです。人気企業への就職希望者はいつの時代も多く、それだけ狭き門なのは当たり前。「就職先がどんな企業でもいいなら話は別ですが、そうではないですよ。ということはやはり、就職活動はたやすいものではないということです」

「就職活動には納得感が必要」と日和田さん。その納得感についてはこう語ります。「もともと就職活動とは、自己理解と外部環境理解という2つの要素をベースにして、一定

期間、いろいろな企業と向き合うもの。その中で学生はその企業に自分が合うか、企業はその学生が自社に適しているか、という判断をします。学生はトライ&エラーを繰り返しつつ、最終的に自分で着地点にたどり着く。このプロセスを踏むことが、納得感を生み出します」。その納得感をもって就職できれば、入社後、例えば希望の部署とは違うところに配属されるような理想とのギャップを突き付けられても、簡単に辞めたりせず、そのギャップを自分で埋めることができます。

多様な人との関係性を 構築する基礎力を養おう

「自己理解とは、何のために自分は働くのか、自分の基軸

になることを考えること。そしてどんな業界のどんな企業でどんな仕事をすればそれが実現するのかを、今度は外の世界をリサーチして確認を取っていく。それが外部環境理解の作業です」。何に価値を置くかは自分でしか決められません。しかし「熊大生には、世の中にプラスの影響を持てる存在として卒業して欲しい。大学で学んだことを社会貢献につなげてほしいと個人的には思っています」

熊本大学のような総合大学には様々な学部があり、学部間の切磋琢磨や、個性豊かな先生や学生たちとの出会いや学びがあります。そこで育まれる主体性と多様性こそ、実社会から評価される大学生のポテンシャルだと日和田さん。「企業は学生に完成形を求めています。ほしいのは伸びしろ。専門知識や資格を必要とする職業は世の中のすべての仕事のなかのごく一部です。現代の企業は、社会変化

に合わせて事業を変革することが必須なんです。だからむしろ、いま求められているのは変化に対応ができる人材。臨機応変に仕事を習得しなおせる基礎力を持っている人です」

世の中は多様な人と人との関係性で成り立っています。その関係性を構築できる力こそが仕事力。「その基礎を大学生活の中で育ててほしい。1年生のうちはたくさん友だちをつくり、たくさん失敗してください。そうやって主体性と多様性を身につけてから就職支援課の様々なプログラムに参加してくれば十分に間に合います。就職に向けて、適切な時期に適切な準備をすることを支援するのが、私たちの役割です」と力強く語ってくれました。

熊本大学の就職支援

熊大生のためのキャリア支援サイト (熊大ポータル内)

閲覧は現役熊大生のみですが、大学卒業後のキャリア形成を総合的に支援するサイトが熊大ポータル内に設けられています。

**OB・OG
キャリアメッセージ**

なんと1200人を超えるOB・OGのキャリアメッセージを掲載しています。公務員を含め様々な業界で活躍する卒業生からのリアルな仕事情報は、将来の可能性を広げてくれます！

就職活動体験記

就職活動を終えた4年生、M2生らの就職活動スケジュールや、どんな選考内容だったのかなどが、後輩へのアドバイスとともに紹介されています。

就職サポートブックWEB版

就職活動に必要な自己分析のやり方、エントリーシートや履歴書の書き方、面接対応から内定辞退のやり方まで、就職活動の基本をまとめたマニュアルを電子ブック形式で閲覧できます。

その他就職支援課の支援

就活サポートガイド



就職活動のポイントと様々な支援内容が紹介されています。

業界研究講座



日本を代表する超有名企業がビジネスの最先端を紹介してくれる講座。熊大生の世界観を広げる学びの場です。

先輩キャリア交流会



キャリア支援サイトに投稿しているOBやOGが、オンラインでつながりアドバイスをしてくれる交流会。

学内企業説明会



積極的に熊大生を採用している約120社によるオンライン説明会。

熊大生の主な就職先



どんな学部で学んでも、様々な選択肢があります。ぜひアクセスしてみてください！

薬学部



新薬承認・審査



中島 麗子

Reiko NAKASHIMA

■Profile

1982(昭和57)年生まれ。鹿児島県鹿児島市出身。鹿児島県立鶴丸高等学校卒業。休日は皇居ランニングや、友人と食事やスポーツ観戦をしたりしています。

■勤務先

独立行政法人医薬品医療機器総合機構 新薬審査第三部<東京都>

■卒業

薬学部薬科学科／2007(平成19)年3月卒業
大学院薬学教育部博士前期課程 生命薬科学専攻／2009(平成21)年3月修了

ちが強くなり、現職を選びました。

現在は、学生時代にやりたいと感じた仕事そのものに従事しています。新薬の承認・審査業務においては、日々医療や科学が進歩する中で、最新の科学的な知見に基づいて検討する必要があります。業務と並行して自己研鑽も必要。大学時代に、研究活動を通して納得できるまで探究した経験が今の業務に向き合う心・姿勢につながっていると感じています。日本の医療、そして多くの患者さんの命にかかわる仕事なので常に緊張感をもってあたっています。その時点での薬剤の有効性・安全性の情報に基づいて承認の可否を判断するには、何度も検討や議論を重ねることが必要。しかしだからこそ、承認につなげることができたとき、大きな達成感を得られます。



修士1年の夏休み、青春18きっぷで旅行

新薬承認という緊張感ある仕事だからこそ、達成感は大きい

在学中は、学部3年生の秋から熊本大学病院の薬剤部に併設されている研究室に所属しました。臨床薬物動態学に興味があったことと、より実臨床に近い環境で研究をしたいと思ったことが理由です。研究室では熊本大学病院の医師とともに、学生の立場で患者さんの同意を得た上で臨床研究をするという貴重な機会をいただきました。しっかりと研究をやり遂げたいと思い大学院にも進学。米国の国際学会に参加し、海外の研究者と接したことで視野も広がったと思います。日本において医薬品がどのような議論を経て承認されているのか興味を持ったこと、そして指導してくださった先生と話す中で、新薬の承認や審査を通して、日本の医療現場に、科学的にリスク・ベネフィットが担保された医薬品を届ける一助となって医療に貢献したいとの気持ち

法学部



弁護士



永野 寛英

Tomohide NAGANO

■Profile

2000(平成12)年生まれ。熊本県熊本市出身。熊本県立済々黌高等学校卒業。2023(令和5)年司法試験合格後、約1年間広島県で司法修習を終えたのち、2025年春に弁護士登録(東京弁護士会)。

■勤務先

弁護士法人虎門中央法律事務所 弁護士<東京都>

■卒業

法学部法学科／2022(令和4)年3月早期卒業
早稲田大学大学院法務研究科／2024(令和6)年3月修了

事がしたい、と思うようになったことが、弁護士になることを意識したきっかけだったと思います。

幅広い案件に対応できる弁護士になりたいと思ったこと、事務所の「FOR THE CLIENT」「NEVER GIVE UP」「FIGHT FOR JUSTICE」というポリシーに共感したことから、現在の勤務先を決めました。2025年4月に弁護士登録をしたばかりですが、今は主に企業のお客様の、法律相談や契約書のレビュー、訴訟対応等の案件に携わっています。最近では企業の組織再編の案件にも携わっており、会社の命運がかかっている非常に緊張感のある状況で、法的な側面について適切なアドバイスができるよう精進しています。一生懸命に取り組む、依頼者はもちろん、ともに案件に携わったチームに貢献できたと思える時が一番の喜びです。



水球部での福岡遠征

顧客企業の命運にもかかわる緊張感ある案件にも取り組む毎日

受験シーズン真っ只中の高校3年生の冬、熊本大学法学部が、法学部を3年で早期卒業し、法曹連携協定を締結している4つの大学の法科大学院に進むことができる法曹コースを設置したと聞いたことが進学を決めた理由です。将来に対して漠然とした不安がある中で、熊本大学法学部には、学生が将来に向かって挑戦できるような体制が整えられていそうだと感じました。大学2年生から法曹コースに所属し、司法試験合格に向けて組まれた授業を履修したり、自主ゼミを開催して志を同じくする仲間と一緒に切磋琢磨しながら勉強。先生方からも、自主ゼミへの参加や答案の添削など、様々な手厚いご支援をいただきました。進学時は法曹になることはあまり考えていませんでしたが、法学部で法律の講義を受け、法律はおもしろい、将来は法律を使った仕

文学部



劇場管理・運営



宮本 帆士魁

Hoshito MIYAMOTO

■Profile

1992(平成4)年生まれ。熊本県合志市出身。熊本県立菊池高等学校卒業。休日は息子2人と過ごすことが何より幸せて、公園やおもちゃ遊びを全力で楽しんでいます！

■勤務先

公益財団法人熊本県立劇場 総務グループ<熊本県>

■卒業

文学部文学科東アジア言語文学コース中国語中国文学専攻／2015(平成27)年3月卒業

将来が描いていたものと違ってても経験したすべては必ず生きる

教員になる夢と文学への興味の両方から、教員免許を取得できる文学部に進学しました。熊本大学に決めたのは、オープンキャンパスで、日本と中国の鬼の違いをテーマにしたおもしろい講義を受けたことや、熊本大学の雰囲気を入り込んだからです。専攻は中国語中国文学で、六朝志怪や唐代伝奇といった古典中国文学を研究。仙人や妖怪といった不思議な話だけにとどまらず、現代にも通ずるたとえ話や熟語の元となった話など、国語教育に必要な知識や見識も一緒に深めることができました。

卒業後は教員採用試験に合格できず、現職の募集を知り就職しました。現在は総務グループに所属。経理を主に、規程の整備や広報、設備の修繕など仕事内容は多岐にわたっています。すべての仕事に通じることですが、自分の考えや組織の考え、伝えた

いことを正確に言語化することは非常に重要で、大学生活で課題として多数のレポートを作成したり、多様な人々とかかわることでこの力を培ったように思います。特に芸術分野では感性に訴えかける部分も言語化して伝える必要があり、今役立っているなど感じています。公益財団法人特有の法律やルールなどに苦労することもあります。劇場利用者の満足された笑みを見る喜びをしっかりと噛みしめながら頑張っています。

10年後の自分の姿が高校時代に思い描いた将来像とは異なっている場合もありますが、それまでに経験してきたすべては絶対無駄になりません。高校生の皆さんには、今やりたいこと、やるべきこと、頑張りたいことを大切に、そのためにできることを実践してほしいと思います。



研究室の教授や仲間と行った上海旅行

工学部



ゼネコン工事管理



廣濱 千明

Chiaki HIROHAMA

■Profile

1994(平成6)年生まれ。鹿児島県種子島出身。私立樟南高等学校卒業。週末はランニングや登山、時々野球をしたりと、とにかく体を動かしてリフレッシュしています。

■勤務先

清水建設株式会社 広島支店 土木部<岡山県>

■卒業

工学部社会環境工学科／2018(平成30)年3月卒業
大学院自然科学研究科博士前期課程土木建築学専攻／2020(令和2)年3月修了

夢は発展途上国のインフラ整備今は、海外プラント建設に従事

学部時代には岩盤工学を専攻し、誘発地震発生メカニズムを研究しました。2016年の熊本地震で、土木が人々の生活に根付いていることを実感したことも研究内容に大きく影響を与えました。院進学後は研究室の先生にお力添えいただき、カナダ・モントリオールと中国・青島へ留学。様々なバックグラウンドを持つ人々に会い、日本とは違う生活環境や文化に触れることで、研究はもとより自分自身の考えや視点を広げることができた貴重な経験でした。

幼い頃からの夢だった発展途上国でのインフラ整備を仕事にしたいという思いと、ものづくりで人々の生活を支援したいという思いから現場で活躍できるゼネコンに就職。清水建設は国内外で幅広い施工実績があり、様々な経験ができるだけでなく、若

手のうちから海外プロジェクトに従事できる機会があり、私も海外勤務を志望しました。入社3年目からシンガポールでのプラント建設プロジェクトに従事。まだまだ若手ですが、外国人スタッフの部下を持ち、担当エリアの工事工程管理や品質管理を行っています。シンガポールは多国籍国家で、一緒に働く人の国籍も多様です。大学時代の留学で培ったグローバルな視点が、共に働く人々の考えを尊重しながら仕事を進める自分の姿勢に生かされていると思います。一方で、言葉の壁はもちろん考えを共有することの難しさも実感。その分、イメージ通りに仕事を進められた時の喜びは大きく、そのたびに仲間との一体感が強まることに大きなやりがいを感じています。多国籍の同僚たちとの会話は非常に刺激的で、自分の価値観をい意味で壊される毎日です。



学外で所属していたクラブ野球チームの仲間と

医学部

研究職



吉本 賢史

Masafumi YOSHIMOTO

■ Profile

1989(平成元)年生まれ。熊本県熊本市出身。熊本県立熊本高等学校卒業。現在5歳の双子の子育てで大変ですが、休日に遊びに連れて行くことが息抜きにもなっています。

■ 勤務先

中外製薬株式会社 研究本部 バイオ医薬研究部<神奈川県>

■ 卒業

医学部保健学科検査技術科学専攻／2013(平成25)年3月卒業
大学院保健学教育部博士前期課程保健学専攻／2015(平成27)年3月修了
大学院保健学教育部博士後期課程保健学専攻／2018(平成30)年3月修了

会で、製薬会社でも最先端の基礎研究ができ、その成果を創薬につなげられることを知りました。自分の研究が具体的な形で患者さんのもとに届く可能性を感じ、製薬会社の研究職を選択。現在携わっているのは、どんな病気のどんな原因(分子)をターゲットにするのかを考え、創り出された新薬候補の効果や悪影響を、実験を通して評価しながら新しい薬を創り上げていく仕事です。自分が考え出した創薬コンセプトが少しずつ形になり「薬の候補」が生まれていく過程を見ていると、この仕事をしていてよかったと感じます。一方で、おもしろそうだという興味やアイデアだけでは不十分で、本当に患者さんに届けられる薬になりうるのかという現実的で厳しい視点を常に持ち続けなければならない大変な仕事でもあります。



学生時代、スコットランドなどをバックパック旅行

学生時代から肌に合った研究成果を社会に届けられる製薬会社へ

私が進学した保健学科検査技術科学専攻は、病気の診断に欠かせない様々な検査を行う臨床検査技師を目指す学科。人体の仕組み、病気の原因、それをどうやって検査で明らかにするのかなど、知れば知るほどおもしろかったです。がんに興味があり、担当教官に頼んで学部3年から研究室に出入りし研究を行いました。研究が肌に合い博士課程にも進学。私の気持ちを理解し、反対せずに背中を押してくれた両親には本当に感謝しています。博士課程では、腫瘍病理・分子腫瘍学の観点から、「がんがどうやってできて、どう進行するのか」を、細胞や組織、遺伝子のレベルで解き明かす研究を行いました。

博士課程修了後はアカデミアでがんの基礎研究を継続したいと考えていたのですが、軽い気持ちで参加した製薬会社の説明

薬学部

バーテンダー



豊川 紗佳

Sayo TOYOKAWA

■ Profile

1987(昭和62)年生まれ。熊本県熊本市出身。熊本県立熊本高等学校卒業。旅行が大好きで、蒸溜所やカクテルの発祥の地などを巡っています。アニメや映画を観ることも好きです。

■ 勤務先

Bar BLUE 代表<熊本県>

■ 卒業

薬学部 創薬・生命薬科学科／2013(平成25)年卒業

だけでなく世界中のバー業界に知り合いができるのも楽しみ。バーテンダー競技会については、2019年Marie Brizard Masters cocktail competition 世界大会で優勝しました。国内では、2024年に続き、今年も10月のバーテンダー技能競技大会に九州代表として出場します。薬学部からバーテンダーという異色のキャリア形成をしています。ジンをはじめと薬として売られていたし、お酒には様々なハーブや漢方薬の材料が入っているものも、蒸留や醸造、ウイスキーの熟成過程は化学そのもので、大学時代の知識が生きていますし、学生時代よりも勉強しています(笑)。高校生のうちに将来を決めるのは難しいですが、夢は、何歳になっても叶うと思います。そのためには、勉強でもスポーツでも、目の前にあることに精いっぱい取り組んでください。



学生時代、バーテンダーのアルバイト

薬学部からバーテンダーの世界へ バーテンダー競技の世界大会で優勝！

将来は研究職に就きたかったので、大学在学中は、将来携わることがない接客業を経験してみたいとアルバイトに応募。その中で、最初に採用されたのがバーでした。そこで接客業のおもしろさ、カクテルの歴史、お酒の成り立ちや薬との関係などに興味を惹かれ、あっという間にのめり込むことに。バーテンダーの競技大会を見たとき、その立ち姿や所作の美しさに感動し、私も競技会で同じ舞台に立ってみたいと思ったことがきっかけでバーテンダーになることを決意しました。

今はバーテンダーとして店に立ちながら、経営、スタッフへの技術指導、イベント等でのカクテル提供、カクテル開発などを行っています。お客様にカクテルを美味しいと言ってもらえたとき、再訪いただいたときなどは本当に嬉しく、やりがいを感じます。日本

教育学部

教育委員会



福田 衣都子

Etsuko FUKUDA

■ Profile

1966(昭和41)年生まれ。熊本県熊本市出身。熊本県立第一高等学校卒業。休みの日はステンドグラス作りやフラワーアレンジなどの制作に励んでいます。

■ 勤務先

熊本市教育委員会 教育次長<熊本県>

■ 卒業

教育学部小学校教員養成課程／1988(昭和63)年3月卒業

子どもの笑顔に力をもらい 人の成長にかかわれる意義ある仕事

学生時代、特に大きな転機となったのは教育実習です。子どもたちへ愛情を注ぎながら子どもたちとともに歩まれる先生方の姿や、子どもたちが毎日確実に成長していく姿は感動的で、たった数日間の教育実習ではありましたが、終わるときには子どもたちと涙涙の別れとなりました。その時から、「何となく興味があった教育の仕事」が「やりたいこと」へと変わり、自分の進むべき道だと思えるようになりました。

現在は教育委員会で仕事をしています。私のキャリアの大半は学校です。あらためて振り返ると、教諭時代は毎日の仕事を「仕事」とは感じていなかったように思います。教育は人の成長にかかわる重要な仕事であり、悩むことも多くありました。しかしそんな時でも「明日はどんな授業をしよう」「この活動を取り

入れてみてはどうか」など、自分で考え実践できるクリエイティブな毎日にやりがいを感じながら、子どもたちの笑顔と成長に感動をもらった日々でした。現在は直接子どもたちと接することはありませんが、少しでも先生方や子どもたちの笑顔につながるようにと思いながら仕事ができることにやりがいを感じています。難しい課題もありますが、みんなで力を出し合って解決に向かう過程は教諭時代のクリエイティブな毎日と似ています。これから大学に進む皆さんはぜひ、自分はどんなことをしている時に楽しいと感じるのか、何にやりがいを感じるのか、どんな仕事をしたいのかなどゆっくり探していきましょう。同時に、それが何のためなのかを見つけれれば、それはどんな環境においてもあなたを支える原動力になると思います。



ゼミ合宿での島原普賢岳登山

法学部

旅館支配人



吉留 雄介

Yusuke YOSHITOME

■ Profile

1985(昭和60)年生まれ。福岡県築上郡築上町出身。福岡県立京都高校卒業。都会の魔力と自身の浪費癖を敬遠し、田舎の古民家を買取り日々DIYと湯めぐりをしながら暮らしを楽しんでいます。

■ 勤務先

つたて温泉ひぜんや 常務執行役員総支配人<熊本県>

■ 卒業

法学部法学科／2007(平成19)年3月卒業
九州大学法科大学院／2010(平成22)年3月修了

企業倫理の形成に役立っている 大学で学んだ法律

熊本大学在学中は、自炊の腕を上げようと居酒屋のキッチンでアルバイトをしたり、徹夜で麻雀をしたり。でもきちんと単位も取得し、決して不真面目な学生ではなかったと思います。そんな中、司法試験受験に法科大学院修了を条件とする司法改革が行われ、法科大学院への進学を決心。心機一転勉強に励み九州大学法科大学院へ進学しました。ただ、短期集中で生活費を稼ぐリゾートバイトで現在の会社を訪れたのが、のちの就職のきっかけです。弁護士はトラブルを解決するすばらしい職業。一方で宿泊業には、お客様に次の日の元気を生み出すという、また違った魅力を感じました。

現在は計190室のリゾート旅館の常務兼総支配人を務め、大学院時代に勉強した法律は、企業倫理の形成に役立っています。

ホテルの仕事は、営業予約部、フロント・接客・レストラン部、調理部、施設部、清掃部やクリーニング部、総務部など様々。でも目的はみな同じ「お客様の明日の活力のため」です。各部署で入念に準備をし、喜んで帰っていかれるお客様をお見送りするときに同じ達成感・充実感を得られます。

これまで自分がやってきたことは、役に立たないことの方が多くかもしれません。ただ、何でも一生懸命に取り組めば後々の人生で役立つこともありますから、一生懸命にやっておく損はしません。その代表が受験勉強です。私がもっと力を入れておけばよかったと思うのが語学。もっと勉強しておけば、国際結婚をするとき、あんなにボディランゲージに全振りしたフリップ芸をしなくても、相手方のご両親にスマートな挨拶ができたのにと後悔しています(笑)。



アルバイト後、仲間と打ち上げ

医学部

助産師・講師



大庭 美代子

Miyoko OBA

■ Profile

1969(昭和44)年生まれ。熊本県熊本市出身。熊本県立済々黴高等学校卒業。映画鑑賞が趣味で、週1本は映画館で観ることを目標にしています。

37歳から医学部保健学科に進学
「夢は何歳になっても叶えられる！」

子どもたちの心を支える教師になりたいと教育学部に進学しましたが、教職には就かず、最初は地元のIT企業に就職しました。ところが出産後、初めての育児で産後うつに。この時、助産師や保健師に助けられた経験を通し、教師にはならなかったけれど、子育てをする親を支えることが結果的に子どもたちを支えることになると考え、助産師養成課程のある熊本大学医学部保健学科に進学を決めました。2度目の大学生活は37歳でスタート。未就学児2人を抱えたママ看護学生となりました。時間も体力も限られる中で学ぶことは大きな挑戦でしたが、看護師・保健師・助産師の3つの国家資格を一緒に取得。看護学専攻を首席で卒業できたことで何歳になっても学べることを体現できたし、生きていく上で自信にもつながりました。

■ 勤務先

多摩ファミリークリニック(助産師)＜神奈川県＞
居場所づくりプロジェクト あゆみYELL代表＜神奈川県＞
他講師業

■ 卒業

教育学部小学校教員養成課程／1992(平成4)年3月卒業
医学部保健学科看護学専攻／2010(平成22)年3月卒業

これまで、助産師・保健師・看護師として複数の仕事を経験。現在は地域にあるクリニックの外来で助産師として働いています。乳幼児健診やワクチン接種で外来に来るお母さんにこちらから声をかけることで、どんなことでも気軽に相談できるような環境づくりを心掛けています。そのほか講師として、小中高校やNPO、行政などからの依頼を受け、性教育や命の話、人権教育、育児、ヤングケアラーなどに関する講演も実施。これには、教育学部時代の教育実習で、授業の組み立てや人前で話す訓練をしたことが活かされています。複雑な家庭環境に生まれ、自分を大事に思えなかった時期がある私だからこそ、まずは自分が自分を大事に思う気持ちを持つ大切さを伝えたい。生涯をかけて続けていきたいと思っている仕事のひとつです。

看護学生時代、
子どもと過ごした束の間の休み

理学部

テレビ局



坂元 海斗

Kaito SAKAMOTO

■ Profile

2001(平成13)年7月生まれ。大分県国東市出身。大分県立杵築高等学校卒業。趣味は陸上、ウイスキー集め、サウナ、ラーメン。

■ 勤務先

株式会社テレビ大分 営業部＜大分県＞

■ 卒業

熊本大学理学部理学科物理学コース／2025(令和7)年3月卒業

大分愛あふれるテレビ局
自ら企画できる自由度も魅力

大学時代は陸上競技部に所属。十種競技が専門で心技体すべてを高める必要があり、同期や後輩と厳しい日々を送りました。部活後に仲間とよく行ったのがサウナ。祖母から譲り受けた車を持っていたので、部員を何度も送迎しました。伝統は後輩に引き継いだので、新入生の皆さんはぜひ陸上競技部を訪れてみてください。

大分県でも面白い仕事したいと就職活動を行い、「わくわくを共に」というテーマを掲げ、大分を盛り上げようと意気込む社員ばかりの大分テレビに惹かれて入社しました。私の所属する営業部の仕事は、スポンサーからテレビ広告をいただくこと、撮影に立ち会い内容に誤りがないか確認すること、新たな企画の作成と売り出し、主にこの3つです。テレビ局はテレビ番組を

放送するだけでなく、自分のやりたいと思った企画を提案することができ、自由度が高い点も魅力の一つです。超臨界二酸化炭素について異様に詳しい社員は私しかいませんし、理学について多くの知識を持っていることは、テレビ業界でも役に立つと考えています。今年は、テレビ大分が主催しているジゴロックという野外音楽フェスにスタッフとして参加。来場くださった皆さんの喜ぶ姿を見てやりがいを感じました。番組やイベントを通して県民の生活にわくわくを届けられることが、この仕事の喜びです。おもしろいことをやろうと思っていますから、高校生の皆さん、たまにはテレビを見てください(笑)。今の時点で夢を持つことは難しいかもしれませんが、勉強が将来の自分の仕事選びの幅を広げることは間違いないと思います。

学生時代、
赤門前で部活の新入生勧誘

新・熊本大学広報Webサイト

「Kumadai Now」熊大なう。始動!

熊本大学では、これまでWebマガジンとして「Kumadai Now(熊大なう。)」を運営し、様々な研究、学問、学生活動などを紹介してきました。このWebサイトをリニューアルし、「熊大タイムズ」「熊大チャンネル」「まちなかキャンパス」「熊大通信」という4つのコンテンツを集約した新「Kumadai Now(熊大なう。)」として運用を開始。熊本大学が発信する様々な情報媒体の入り口がひとつになったことで、皆さまが知りたい熊本大学に、より一層便利にアクセスいただけるようになりました。

Kumadai Now 熊本大学広報サイト 熊大なう。

Kumadai Now(熊大なう。)とは、本学の魅力を発信しているさまざまなコンテンツを集約した、広報情報集約サイトです。

- Times** 熊大タイムズ: 熊本大学の研究内容や学生の生活、国際化の取り組み等の幅広い情報をウェブマガジンで発信。
- Movie** 熊大チャンネル: 熊本研究者の研究内容や部局の紹介など幅広い情報を動画で発信。
- Event** まちなかキャンパス: 葛屋書店熊本三年坂での展示イベント情報等をご案内。
- Magazine** 熊大通信: 熊本大学の広報誌「熊大通信」Web版として、大学情報を発信。

熊大タイムズ 熊本大学の研究や学生活動などについてウェブマガジンで発信しています。

熊大チャンネル 熊本大学の研究や部局の紹介を動画でご紹介します。

まちなかキャンパス 葛屋書店熊本三年坂店で開催される熊本大学の展示イベント等をご紹介します。

熊大通信 熊本大学の広報誌「熊大通信」のWeb版です。

ここが便利に!

新「Kumadai Now」では、知りたい情報のワード検索が可能。例えばキーワードに「半導体」と入れると、4つのコンテンツすべてから、半導体にかかわる記事が表示されます。

SEARCH 記事を探す

キーワード検索 検索

所属別

Kumadai Now



SEARCH キーワードで探す

検索結果

「半導体」の検索結果 (15件) を表示しています。

熊大通信 2025.03.10 半導体の可能性を探る研究者たち - DX時代におけるイノベーションをおこす -

熊大通信 2025.03.10 高度半導体人材を世界へ

熊大通信 2025.03.10 熊大発! オンラインの半導体教育で未来を拓く

熊大チャンネル 2024.09.02 『フィロソフィア』第65回「半導体・半導体の3次元集積技術で新しい世界に貢献」

熊大タイムズ 2024.04.01 半導体の3次元集積技術で新しい世界に貢献

熊大チャンネル 2023.04.26 【学科紹介】半導体デバイス工学課程

熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。 No.66(令和6年2月1日～令和7年4月30日)

熊本大学基金に対しまして、深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
皆様からのご寄附は、本学の教育研究の充実、学生支援、環境整備等、幅広く活用させていただいております。
今号では、令和6年2月1日から令和7年4月30日までの間に入金を確認させていただきました個人1089名、110法人・団体のすべての寄附者の皆様へ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。また、万一お名前に記載漏れがある場合は、誠に恐縮ではございますが、基金運営室(電話:096-342-3129)までご連絡ください。
皆様の更なるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。
※お名前・寄附金額の公開の許可をいただいた方のみ、寄附金額別、五十音順、敬称略にて掲載させていただきます。
※()内の数字は、累計寄附金額(万円)、[]内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

■令和6(2024)年2月

1. お名前・寄附金額の掲載

【500万円】 千崎 和也・イフ子親族(500)
【100万円】 熊志会(2500)
【20万円】 橋原 哲史(20)
【5万円以下】 采田 憲昭(4) 奥村 大和(1) 吉良 研一(1) 朝永 由樹(0.5)
宮本 真次(9.3)
医療法人社団幸村医院(55) 熊薬昭和39年卒同期会(2.9)

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人55名

■令和6(2024)年3月

1. お名前・寄附金額の掲載

【2000万円】 株式会社ダイセル(2000)
【25万円】 山本 憲二(25) 山本 里織(25)
【20万円】 西口 特政(20)
【10万円】 医療法人社団田中泌尿器科外科医院(10)
【9万3千円】 熊本県女性薬剤師会(44)
【5万円以下】 大野 剛(3) 神山 憲次郎(19) 古賀 久恵(2.5) 園田 修司(0.5)
高岡 次義(1) 田中 賢一郎(1) 田中 秀樹(1) 藤本 博(3)
松田 亨(5.5) 松見 信太郎(2) 松村 保広(4) 宮本 真次(9.8)
本島 昭男(29.5) 吉村 力(3)
医療法人真愛会(5) 熊本大学医学部医学科後援会(2498)

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人96名、3法人・団体

■令和6(2024)年4月

1. お名前・寄附金額の掲載

【30万円】 井上 俊輔(70) 重松 作治(30)
【20万円】 医療法人社団誠心会(20)
【10万円】 有限会社原田写真場(15)
【5万円以下】 伊豆 智明(0.5) 澤田 貴彰(0.5) 豊永 政和(1)
前田 康裕(0.5) 前野 正春(1) 杏尾 修一(55.5)
松尾 澄人(0.5) 宮本 真次(10.1) 安永 澄男(9.8)
矢原 幸治(7) 渡辺 清吉(9.5)

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人79名、1法人・団体

■令和6(2024)年5月

1. お名前・寄附金額の掲載

【20万円】 北里 敬明(44) 桑野 幸徳(622)
【10万円】 大久保 弘人(35) 宮尾 千加子(41)
【5万円以下】 近藤 光弘(6) 櫻井 貴浩(2) 土亀 直俊(23)
野口 和紀(1) 藤村 重利(8) 宮本 真次(10.4)
本島 昭男(30)

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人42名、6法人・団体

■令和6(2024)年6月

1. お名前・寄附金額の掲載

【50万円】 株式会社久仲工建(600)
【20万円】 真鍋 治彦(20)
【10万円】 倉津 純一(42)
【5万円以下】 岡島 寛(52) 小貫 治朗(7) 庄田 暁生(2) 宮本 真次(10.7)

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人27名、1法人・団体

■令和6(2024)年7月

1. お名前・寄附金額の掲載

【200万円】 熊本大学医学部保健学科同窓会(400)
【5万円以下】 石丸 壽朗(1.5) 佐藤 志保子(1) 砂原 秀明(1)
中野 衣里(0.5) 坂東 依未(0.5) 宮本 真次(11)
村瀬 弘幸(6.1) 安田 一郎(0.5) 安田 征司(0.5) 渡邊 勉(6)

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人42名、2法人・団体

■令和6(2024)年8月

1. お名前・寄附金額の掲載

【100万円】 渡邊 裕一(100)
【50万円】 山田 和彦(230) 株式会社ケイ・アイ・ステイナー (150)
【10万円】 尾原 祐三(51.1)
【5万円以下】 池田 勇(10) 古崎 新一郎(5) 田中 賢一郎(2) 宮本 真次(11.2)

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人30名、2法人・団体

2. お名前のみ掲載

石川 勝規[1] 大塚 豊[1] 加藤 麻梨子[1] 唐村 樹[1]
川上 喜久子[1] 北島 美則[14] 久保 茂樹[1] 吳 峰[1]
小林 裕通[1] 近藤 祐樹[1] 坂上 久生[1] 坂本 さおり[1]
坂元 正克[2] 園田 寛[5] 田頭 敬春[1] 田島 めぐみ[1]
田村 博[1] 中野 幸治[2] 西川 毅[6] 波多野 恭行[33]
平島 善幸[1] 吹上 安伸[5] 福島 敬祐[1] 藤本 俊雄[1]
古川 祥太郎[1] 許 明香[1] 本堂 希予[1] 松尾 淳[1]
丸野 陽一[8] 三苫 晋司[1] 山野 哲弘[1] 山本 崇生[1]
横松 孝[1] 渡邊 春海[2]

医療法人伊東会伊東歯科口腔病院[4] 医療法人西田会[1]
学校法人専門学校公務員セミナー熊本校[1] 株式会社建吉組[2]
日本バプテスト連盟南九州地方連合大牟田・熊本ブロック[1]

2. お名前のみ掲載

麻生 廣文[1] 荒木 秀一郎[1] 五十嵐 龍也[1] 石田 隼一[1]
出田 節子[2] 上原 康嗣[1] 尾池 雄一[1] 大森 勲[1]
鬼塚 猷子[6] 柏木 温香[1] 梶田 愛[1] 梶田 隆二[1]
川野 紘二朗[1] 河野 壮太[1] 河野 壮太[1] 北山 洋一[4]
國友 耕太郎[1] 黒川 哲治[1] 児倉 静二[19] 坂本 大輔[1]
坂本 富士生[1] 菅坡 誠夫[2] 杉原 栄孝[1] 榎山 範夫[1]
鈴木 明美[1] 高潮 利茂弥[1] 田添 正子・田添 英明・田尻 節子[2]
立山 徳明[1] 徳永 琢也[1] 中島 誠[12] 中村 考志[1]
中村 富人[1] 中山 重臣[1] 西村 章[2] 林田 真子[1]
原田 裕子[1] 平井 俊範[1] 平岡 昌晃[1] 平賀 真樹[1]
前田 隼人[1] 増藤 孝成[1] 松本 昌也[1] 間野 志帆[1]
本山 幹子[1] 吉澤 博[1] 医療法人草原会[1] 医療法人光陽会[1]
医療法人社団阜月会関齒科医院[1] 医療法人社団清翠会[2] 株式会社ウエダ[1]
株式会社サンテクノ[1] 株式会社本田[1] 大成建設株式会社[1]
有限会社舒文堂河島書店[1]

2. お名前のみ掲載

池邊 利昭[1] 伊藤 英範[1] 伊藤 雅浩[1] 井上 真紀[1]
今村 直寛[1] 入江 展史[2] 岩尾 美奈子[1] 岩村 徹[1]
大井 浩史[6] 岡本 哲夫[4] 柏尾 俊明[3]
神崎 芳郎[12] 木村 純久[12] 草野 龍二[18] 久保田 健治[3]
坂本 幸樹[1] 柴山 佳夫[10] 志波 典明[2] 世良 喜久子[2]
平 博子[1] 高柳 隆大[1] 田川 健一[2] 棚町 里美[1]
中村 利男[1] 中村 能久[1] 名越 究[1] 西橋 正廣[1]
野口健一郎・恭子[7] 濱本 竜一郎[1] 平川 尚子[1] 藤井 杏鳳[1]
二塚 信[18] 正永 顕証[1] 舛田 斉子[1] 松山 謙志[1]
宮崎 敬一[2] 宮本 恭子[3] 村上 正祐[1] 米納 正剛[1]

2. お名前のみ掲載

岩下 仁[1] 上田 公幸[1] 上塚 浩一郎[1] 大迫 聖子[4]
岡村 怜・理子・依令奈[1] 桂木 芙美[1] 桂木 芙美[1] 楠田 靖紀[4]
後藤 佑佳子[1] 齊藤 和人[5] 坂口 隆夫[2] 佐藤 俊孝[2]
澤田 寛旨[1] 島木 浩次[1] 陣内 寿子[1] 杉山 壽夫[1]
高宗 俊雄[8] 竹本 久美子[2] 谷 正之[1] 田上 将太郎[1]
千島 英一[10] 林 真実[1] 藤岡 明[1] 松尾 誠[1]
矢島 裕子[1] 山田 孝吉[10] 吉田 たえ子[1] 宗教法人加藤神社[1]
深野酒造株式会社[1] 業草パーク観察会参加者有志一同[13]

2. お名前のみ掲載

秋吉 晴彦[1] 池田 祐志[2] 井坂 和義[1] 井上 裕久[1]
今永 一成[1] 今村 典剛[1] 大平 慎一[2] 坂本 理紗[1]
須藤 聡[1] 橋 寛司[1] 傳 心春[1] 西 浩司[1]
波多野 恭行[34] 春田 昭一[1] 杉山 依菜[1] 増永 純夫[1]
村上 朝一[1] 森 司朗[1] 山本 英一郎[1] 吉野 孝博[1]
医療法人杉村会[3] 株式会社琉球保安警備隊[2] 有限会社坂本石灰工業所[5]

2. お名前のみ掲載

安倍 昂洋[3] 大江 捷也[1] 大江 美智[1] 大江 祥生[1]
大和 信子[1] 上城 洋一[7] 菊川 正昭[1] 草野 龍二[19]
多倉 静二[20] 眞田 功[4] 鈴木 晋太郎[1] 土井 雅雄[1]
波多野 恭行[35] 福田 俊幸[9] 二塚 信[19]

2. お名前のみ掲載

井上 誠一[3] 岡本 哲夫[6] 奥 輝之[1] 河村 久幸[6]
木村 純久[13] 木村 英美[2] 黒田 瑠美子[2] 吉開 孝之[3]
永井 陳雄[5] 波多野 恭行[36] 深田 章[2] 宮本 敦浩[1]
村上 俊樹[1] 吉本 寛治[2]
株式会社新井組[1] 株式会社ルフトテックサービス[2]
KMバイオロジクス株式会社[5] シモタ印刷株式会社[4]

■令和6(2024)年9月

1. お名前・寄附金額の掲載

【100万円】 徳永 修・司(107)
【50万円】 熊本医学会(600)
【20万円】 小川 久雄(100)
【10万円】 清原 由紀夫(112) 熊本大学医学部医学科後援会(2508)
【5万円以下】 宮本 真次(11.5) 本島 昭男(30.5)

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人38名

■令和6(2024)年10月

1. お名前・寄附金額の掲載

【100万円】 西田 治義(900) 堤化学株式会社(1110)
【5万円以下】 井上 明蔵(5) 鬼ヶ原 浩二(7) 中野 和夫(1)
長野 晋策(1) 宮本 真次(11.8)

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人43名、3法人・団体

■令和6(2024)年11月

1. お名前・寄附金額の掲載

【5万円以下】 徳田 洋一郎(1) 宮本 真次(12.2)

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人31名、1法人・団体

■令和6(2024)年12月

1. お名前・寄附金額の掲載

【348万円】 熊本大学医学部医学科後援会(2856)
【10万円】 大久保 弘人(45) 大津 敬一朗(290) 増田 武信(40)
【5万円以下】 羽田 邦弘(1) 宮本 真次(12.6)

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人22名、1法人・団体

■令和7(2025)年1月

1. お名前・寄附金額の掲載

【5万円以下】 宮本 真次(12.9)

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人18名

■令和7(2025)年2月

1. お名前・寄附金額の掲載

【100万円】 黒木 政秀(800) 桑野 幸徳(722)
【50万円】 熊志会(2550)
【10万円】 システム通信株式会社(10)
【5万円以下】 宮本 真次(13.2)

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人27名

■令和7(2025)年3月

1. お名前・寄附金額の掲載

【10万円】 倉津 純一(52)
【7万1千円】 熊本県女性薬剤師会(51.2)
【10万円】 大野 剛(8) 宮本 真次(13.4) 渡邊 博志(6)
【5万円以下】 宮本 真次(13.2) 熊本大学医学部医学科後援会(2859)

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人30名、5法人・団体

■令和7(2025)年4月

1. お名前・寄附金額の掲載

【219万4千円】 熊本大学同窓会連合会(281.4)
【5万円以下】 古賀 久恵(3) 古崎 新一郎(9) 近藤 光弘(8)
中上 博秋(14) 松田 亨(6) 宮本 真次(13.6)
本島 昭男(31) 本山 敬一(4) 柳田 敬孝(16)

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人59名、9法人・団体

2. お名前のみ掲載

北島 美則[15] 北山 洋一[5] 倉澤 剛太郎[4] 近藤 光弘[7]
坂井 洋子[9] 相良 勝郎[10] 戸上 勝喜[4] 原田 栄作[9]
藤井 慎嗣[3] 堀池 奈月[3] 堀野 敬[10] 本多 邦雄[15]
柳田 敬孝[18] 株式会社ダイセル[2] 熊本大学医師会[7]
社会医療法人愛育会福田病院[10] 日本中央競馬会[4]

2. お名前のみ掲載

荒川 勝徳[2] 一安 秀範[11] 衛藤 光明[22] 栗原 光江[1]
小池 啓子[1] 酒井 丈典[1] 小池 啓子[1] 篠島 直樹[2]
島上 英治[1] 城間 盛昭[4] 田畑 隆介[1] 土井 英樹[2]
遠山 栄二[3] 長谷 政晴[3] 長山 琢磨[1] 鍋倉 康文[3]
波多野 恭行[37] 平島 健一郎[1] 福野 憲一[1] 丸野 陽一[9]
美並 朗[1] 村松 純子[1] 山田 恒雄[1] 米村 和広[7]
渡邊 圭祐[2] 医療法人公元会[1] 株式会社明和不動産[3]

2. お名前のみ掲載

宇野 浩治[1] 惠良 聖子[1] 落合 道夫[1] 小野 晃裕[1]
川島 孝太[1] 北川 周子[1] 相良 勝郎[11] 下坂 充[1]
園田 寛[6] 園田 真美子[2] 苑田 裕樹[1] 高田 美里[1]
戸塚 誠司[7] 橋本 賢一[1] 濱田 佳奈子[1] 春山 康久[8]
平島 幹大[1] 福村 佳代子[10] 藤田 豊[2] 星野 宏[1]
松岡 重孝[5] 田中 康弘・澄子・八浪 孝代子[1] 吉田 文子[1]
東京エレクトロン九州株式会社[9]

2. お名前のみ掲載

家村 和千代[8] 上田 一生[8] 甲斐 敬志[1] 小池 基樹[1]
児倉 静二[21] 田代 恭平[1] 濱田 義明[1] 廣瀬 文子[1]
矢野 恵美子[6] 山田 紀昭[1] ワード 弥生[1] 株式会社ダイセル[3]
株式会社肥後銀行[11]
Japan Advanced Semiconductor Manufacturing株式会社[1]

2. お名前のみ掲載

芥川 卓也[7] 荒井 澄子[12] 猪俣 敏一郎[8] 片山 邦満[1]
興紹 博次[6] 佐藤 久恵[1] 徳永 隆裕[6] 中村 裕一[2]
波多野 恭行[38] 三浦 裕一[1] 山崎 啓之[1]
学校法人専門学校公務員セミナー熊本校[2]

2. お名前のみ掲載

今岡 義明[1] 入倉 充[2] 奥 輝之[2] 古閑 紀代子[1]
古閑 博幸[1] 鈴木 雄清[1] 仲道 雅輝[1] 馬場 秀夫[2]
南 正大[1] 宮原 俊之[1] 森田 淳子[1] 吉本 優子[1]
医療法人伊東会伊東歯科口腔病院[5] 株式会社ヒライ・コンサルタント[1]

2. お名前のみ掲載

出雲 孝[1] 岩崎 竜之[1] 奥 輝之[3] 加藤 泰久[1]
川口 良彦[4] 岸本 直樹[3] 喜多 敬博[2] 木村 等[1]
合田 美子[1] 齋藤 秀之[1] 城野 博史[1] 都竹 茂樹[1]
徳洲 昭代[3] 野口 大誠[1] 野田 啓子[1] 林田 俊[1]
人羅 榮津子[1] 山縣 ゆり子[4] 米山 あかね[1] 医療法人社団谷口会[1]
株式会社ダイセル[4] 株式会社TRADECREATE[1] 株式会社肥後銀行[12]
株式会社リアサポート[1] 合同会社ステップ・ワン[1] ヘアーサロンSEED[1]

2. お名前のみ掲載

秋吉 樹[2] 浅原 百合子[5] 石井 嘉明[1] 伊藤 雅浩[2]
猪田 京子[1] 奥 輝之[4] 神山 憲次郎[7] 北島 美則[16]
木村 純久[14] 草野 龍二[20] 古閑 孝之[4] 児倉 静二[22]
近藤 悠希[2] 柴山 佳夫[11] 田原春 徹[1] 中島 礼一[3]
西中村 茂[2] 抜山 雄一[1] 野口 健一郎・恭子[8] 東 大志[1]
深澤 達矢[2] 三塚 信[20] 松山 謙志[2] 三隅 将吾[2]
宮本 善雄[1] 吉永 壮佐[2] 株式会社ルフトテックサービス[3] KMバイオロジクス株式会社[6]
株式会社社ルフトテックサービス[3] Japan Advanced Semiconductor Manufacturing株式会社[2]
有限会社傳建プランニング[1]

基金の取り組み事項については、基金ウェブサイトに掲載しております。

熊本大学基金ウェブサイト 【URL】https://kikin.jimu.kumamoto-u.ac.jp/

熊本大学基金

検索





キャンパス ミュージアム 散策

絵・文

松永拓己

大学院教育学研究科
教授・芸術家

ラフカディオ・ハーン先生の碑

〒860-8555

熊本市中央区黒髪2丁目40番1号
学内入場無料

交通機関

バスをご利用の場合
「熊本大学前バス停」下車徒歩1分

ラフカディオ・ハーン先生の碑

熊本大学内の小道をゆく。県道337号沿い熊本大学のランドマークの赤門から入り、サインカーブ路を五高記念館へとつづら歩く。やがて、2つ目の門、白い中門が見える。その左手に石づくりの碑が立っている。明治24年松江中学校より着任した外国人教師ラフカディオ・ハーンの碑である。先生の授業は英語会話を重視し、学生達への指導も熱意があり、添削もとても丁寧であったと聞く。そして「日本」への関心と深い造詣が、数多くの文学作品を生み出す。ギリシャに生まれ、イギリス、フランス、アメリカ、フランス領西インド諸島…と巡り、日本へたどり着いた。大変苦しい移民暮らし、巡り生きてきた彼は、世界の果ての極東のこの熊本で何を感じ見出したのだろうか。レリーフ像の前に立ち、彼が教鞭を取った五高を眺め思索する。

碑には明治27年1月に全生徒への講話「極東の将来」文が書き留められている。「日本の将来は…質実、簡素、善良を愛する九州魂、熊本魂いかに…」五高健児たちへの国民を背負う思い、いや世界人としての覚悟だろうか。五高への期待と世界を視野に若者達に学を託す氏の思いを感じる。

明治27年10月転出、やがて帰化し小泉八雲となる。その後の活躍は周知のとおりである。

この碑近くに、かつて猫橋があった。「真夜中、猫橋で手をたたくと猫が鳴く」。時には遠い昔の不思議話も風景に色を添える。散歩のひとつきを満喫するに丁度良い明治の小道である。

